

＜内戦後のスリランカ経済＞

調査研究報告書

荒井 悦代 編

2014年3月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書

[地域研究センター]2013-[C-2]

[内戦後のスリランカ経済]

はじめに

本報告書はアジア経済研究所が2013年度に2年間の予定で開始した『内戦後のスリランカ経済』研究会の中間報告である。この研究会の最終成果は幅広い読者を対象としたアジ研選書として出版される予定である。

本研究会の目的は、内戦終結後のスリランカが、持続的な発展の軌道に乗るための諸条件を検討することである。スリランカは、社会福祉指標が高く、人的資源が豊かである。また、インドという巨大市場に至近で、東南アジアにも中東にもアクセスがよいという立地上の条件もあり、内戦さえなければ、発展の可能性は大いにあると言われ続けてきた国である。ところが内戦中は不安定な情勢下であり、スムーズな経済活動が阻害されてきた。そして2009年の内戦終結以後、経済成長率は高い水準を保ち、一人あたりGDPは3000ドルになろうとしている。しかし、経済成長を牽引しているのは、落ち込んでいた観光客数の回帰や、中国やインドの援助による港湾や道路、住宅などのインフラ整備事業である。これらの事業の規模は大きく、雇用も創出しているが、将来的な持続性の点で疑問が生じる。内戦の終結とともに政治的には先行きの不透明さは解消されたはずなのに、現在のスリランカでは持続可能な経済発展の主体が見えてこない。

内戦下にあっては、経済状況は常に内戦の行方に左右され、適切な理解が難しかったが、内戦が終結し5年が過ぎようとする今、内戦がスリランカ経済に及ぼした影響や、今後の発展や国民和解の問題を冷静に展望するよい時期である。

研究会一年目である今年度の報告書では、まず現状把握に努めた上で現在のスリランカ経済にまつわる問題点を検証する。

研究会開催に当たっては、鈴木睦子氏より農園タミル人の生活について、「スリランカ紅茶を支えてきた農園タミル人—移動労働者からスリランカ市民に—」として報告していただき、農園タミル人の歴史や現状について認識を深めることができた。ここに心よりの謝辞を申し上げます。

2014年3月
編者

目次

第1章	南アジアの中のスリランカ経済.....	荒井悦代.....	1
第2章	スリランカにおける民族紛争と分権化 ——第13次憲法改正を中心に.....	近藤則夫.....	20
第3章	スリランカ労働市場の基本特性と労使関係の輪郭.....	太田仁志.....	39
第4章	スリランカの海外就労促進政策とアジア諸国の受入れの現状と課題 ——中東湾岸諸国、韓国、日本を中心として.....	鹿毛理恵.....	66
第5章	津波と内戦後の漁業の現状と課題.....	高桑史子.....	81
第6章	スリランカ経済と民間部門—歴史的背景.....	荒井悦代.....	92
第7章	Education System of Sri Lanka: Strengths and Weaknesses I. M. Kamala Liyanage.....		116

執筆者一覧（執筆順）

あらいえつよ
荒井悦代 アジア経済研究所 地域研究センター

こんどうのりお
近藤則夫 アジア経済研究所 地域研究センター

おおたひとし
太田仁志 アジア経済研究所 地域研究センター

かげりえ
鹿毛理恵 佐賀大学

たかくわふみこ
高桑史子 首都大学東京

いみや かまらりやなげ
Imiya M. Kamala Liyanage ペラデニヤ大学政治学科

調査研究報告書
[地域研究センター]2013-[C-2]
[内戦後のスリランカ経済]

2014年3月31日発行

発行所 独立行政法人日本貿易振興機構

アジア経済研究所

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2

電話 043-299-9500

無断複写・複製・転載などを禁じます。
